

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 点字と手話の勉強会 てとてん

事業名 障害がある人とない人が共に暮らせる地域を目指す福祉体験講座

No.	評価項目	採点の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A：計画を上回って実施できた B：計画どおり実施できた C：計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A：達成できた又は達成に十分つながった B：達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C：達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A：制度の目的に十分に寄与するものだった B：制度の目的に多少は寄与するものだった C：制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A：様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B：小規模ではあるが一定のPRが行われた C：PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A：外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B：外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C：外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A：団体として具体的な計画を立てている。 B：団体としての動きが多少ある C：継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

- ・小中学校等を中心に若年層へのシニアサイン・点字の普及に努められたことは評価できる。今後も様々なコミュニケーション方法を広めていただきたい。
- ・障害の有無や人種・国籍にとらわれずに一緒に活動ができるような事業を行うなど、共生社会の実現に向けた取り組みを期待したい。
- ・SNSを活用し、若い世代の参加を促していることは評価できる。
- ・平成28年4月に障害者差別解消法が施行されたところであり、今後も活動の幅が広がっていくと期待する。小中学校における福祉活動に今後行政としても力を入れ実施していくので、引き続き協力をお願いしたい。また、先方からの声掛けを待つのではなく、団体から積極的に売り込みにいき、講話等の機会を得られるような活動も期待する。
- ・地域社会貢献者としての感謝状を受けたことは大変な名誉である。